

2017年10月10日

核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) のノーベル平和賞受賞を祝して

(公財) 世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)日本委員会

理事長 杉谷義純

この度、核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) がノーベル平和賞を受賞されましたことを、心からお喜び申し上げます。核兵器の禁止・廃絶に向けて理念、活動をともにしてきたパートナーとして、この栄えある受賞を共に喜び、分かち合いたいと思います。

ICAN は広島、長崎の被爆者をはじめ、世界の核実験、核兵器開発過程で被害を被ってきた人々の「ふたたび被爆者をつくらない」という願いを真摯に受けとめ、その願いを国連などの国際交渉や NGO 間のネットワーク、市民への啓発・教育など幅広い場面において、具体的な取り組みを継続してこられました。今回の受賞は ICAN のこうした地道な活動が、本年の核兵器禁止条約の実現に大きな貢献を果たされたためであるからと考えます。

数年前まで核兵器禁止条約は、大国の軍事バランス論に翻弄され続けた国際政治において、実現が到底考えられない夢物語として語られてきました。しかしそれでも核兵器は人道的に許されないものであるとの被爆者の懸命な訴えに、「核兵器なき世界」の実現をめざす多くの人々が励まされてきました。ICAN は被爆者の身を挺した訴えを心から大切に、世界の政治家、市民、メディアなどに丁寧に分かり易く語りかけたのです。そしてこの人々の良心にもとづく人道主義によって、核兵器が開発されてから初めて「核兵器の禁止」のための画期的な条約が生まれました。

この ICAN の取り組みがノーベル平和賞を受賞されたことは、「核兵器なき世界」に向け非常に有意義な前進をもたらし、またその実現をめざす人々に多大な勇気を与えるものです。

今回の受賞は WCRP/RfP にとっても意義あるもので、大変嬉しく思います。WCRP/RfP は ICAN と共に本年3月、核兵器禁止条約交渉に向けて「交渉ハンドブック」を作成し、各国政府へのアドボカシー・提言活動を行ってきました。また9月には核兵器禁止条約署名式に向けて WCRP/RfP と ICAN の連名の書簡を関係国、市民、宗教者に送付し条約参加を幅広く呼びかけました。このように宗教者と市民社会の協力を行ってきましたが、その連携団体である ICAN が受賞されたことは、WCRP/RfP にとってもこうした活動への大きな励ましを頂いたものであります。

私達宗教者はいたずらに理想を説いているのではありません。人間の未来のあるべき姿を人類が滅亡の淵に近づかないように、神仏の教えを示しているからです。

この度の ICAN のノーベル平和賞受賞を契機に、WCRP/RfP は引き続き世界の様々な宗教者のネットワークを駆使し、「核兵器なき世界」の実現に力を尽くす決意を新たにします。